

第80回水道事業審議会 質疑等

日 時 令和7年1月27日（月）
14時～14時50分
場 所 岡山市水道局 本局3階
災害対策室

■「岡山市水道に関する意識調査」の実施について

- ・ 一般の人は食器洗い機と節水が結びつかないので、注釈が必要ではないか。
⇒ ご意見を参考に修正を行う。
- ・ 水道料金の請求金額は、下水道使用料が含まれているため、分かりにくい。検針票の記載欄の注釈などがあると回答をしやすいのではないか。
⇒ ご意見を参考に修正を行う。
- ・ 過去の推移から有効回答率が減少しているが、今回の有効回答率の見込みはどのぐらいか。
⇒ 50%程度を見込んでいる。

■上下水道施設の耐震化状況の緊急点検結果について

- ・ 「重要施設に接続する管路等70%」、「水道管路が耐震化されている重要施設 83施設分の26施設」とは、どういう意味か詳しく説明していただきたい。
⇒ 「重要施設に接続する管路等70%」とは、重要施設に接続するすべての管路のうち70%は耐震化していると示している。
「水道管路が耐震化されている重要施設 83施設分の26施設」とは、配水池から重要施設までのすべての管路が耐震化されている施設は26施設と示している。

■水道水におけるPFAS（有機フッ素化合物）の状況について

- ・ 三谷川など複数河川の調査を行っているが、発生原因は何なのか。
⇒ 原因調査は、市の環境保全課が進めており、情報共有は常時行っているが、まだ原因についての情報共有はない。
- ・ 基準値（暫定目標値）が国によってまちまちな状況であるが、どのような考えを持っているのか。
⇒ 水道局は、暫定目標値として定められている50ng/Lを超過しないよ

うに対応し、下げることができる対策をさらに検討する。

- ・ 活性炭を使った対策は行っているのか。
⇒ 現在、活性炭を用いてどの程度効果があるのか試験している。活性炭の量など、さまざまな試験を行いながら、最適な方法を検討している。

■ 料金改定後の料金収入の状況について

- ・ 料金改定によって、使用水量は減少したのか。
使用水量の減少は、見込みに反映されているということか。
⇒ 水量は過去から微減傾向であり、料金改定時の財政見通しではそれを見込んでいた。見通しより水量が増え、収入が減った理由は、小口径の給水件数が見込みより増加したことや、10月頃まで猛暑が続いたことが要因であると考えられる。一方、大口径の最も高い単価の給水料金の使用水量が減少したため、収入は、相殺された。